

1



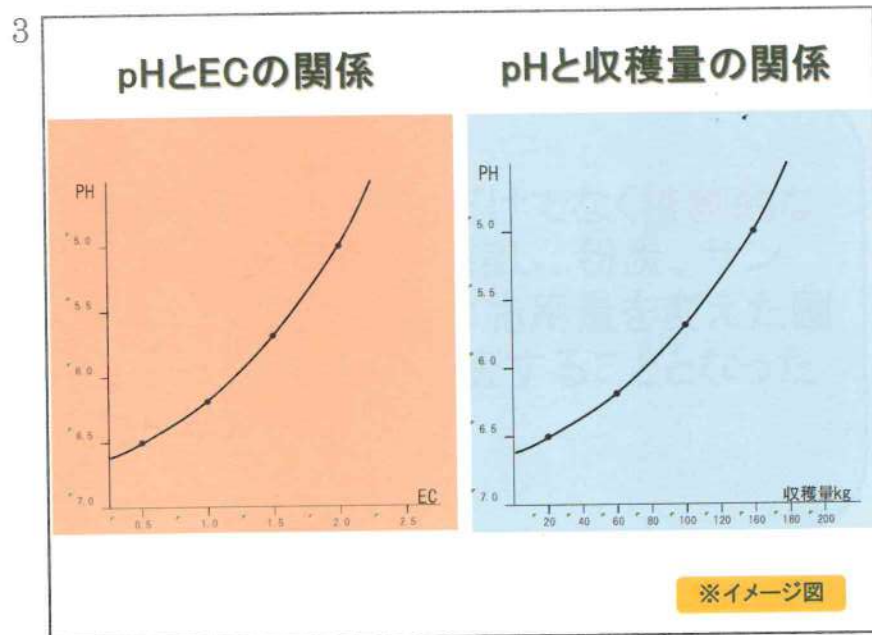
経営を安定させる土壌pH調整



循環型農業実践農家 河野 忠俊

2

宮崎県児湯郡都農町

4

安定・確実な農業

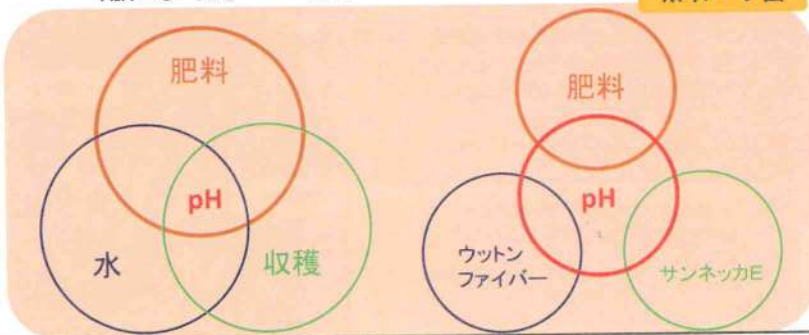
○土作り

- ・炭素率を上げる(土着菌)
- ・堆肥を使う (微生物菌)
- ・pH調整 (サンネッカE)

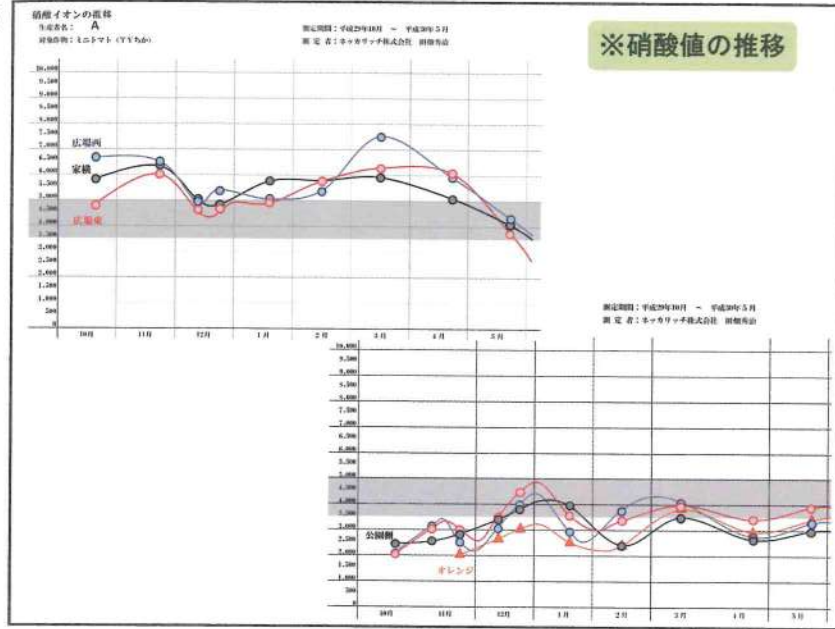
pHの調整の為

$$\text{H}_2\text{N}-\overset{\text{O}}{\parallel}{\text{C}}-\text{NH}_2 \quad \text{NH}_4$$

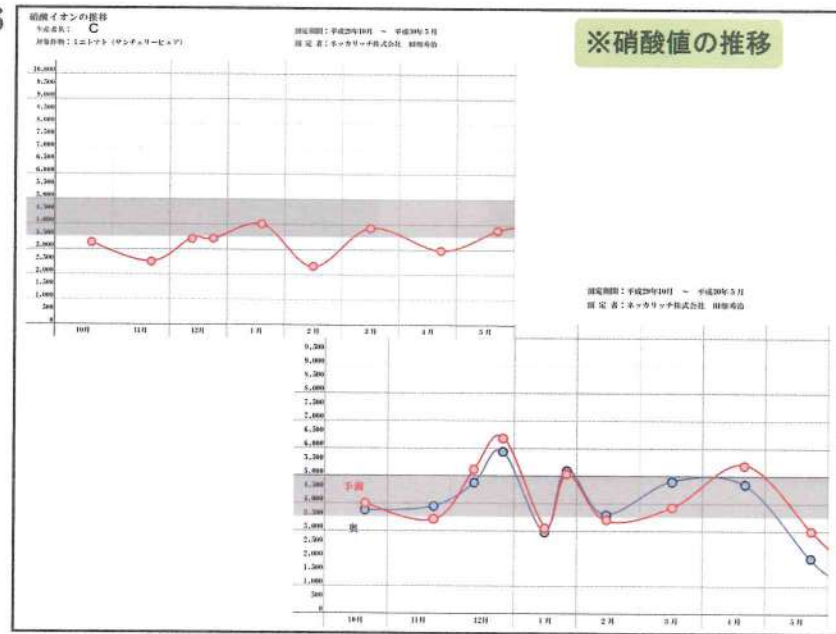
※イメージ図



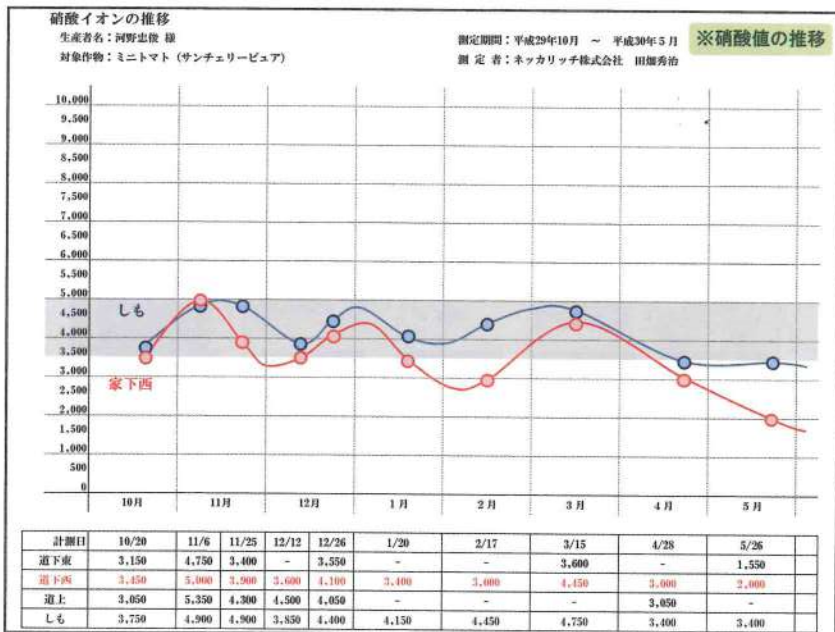
5



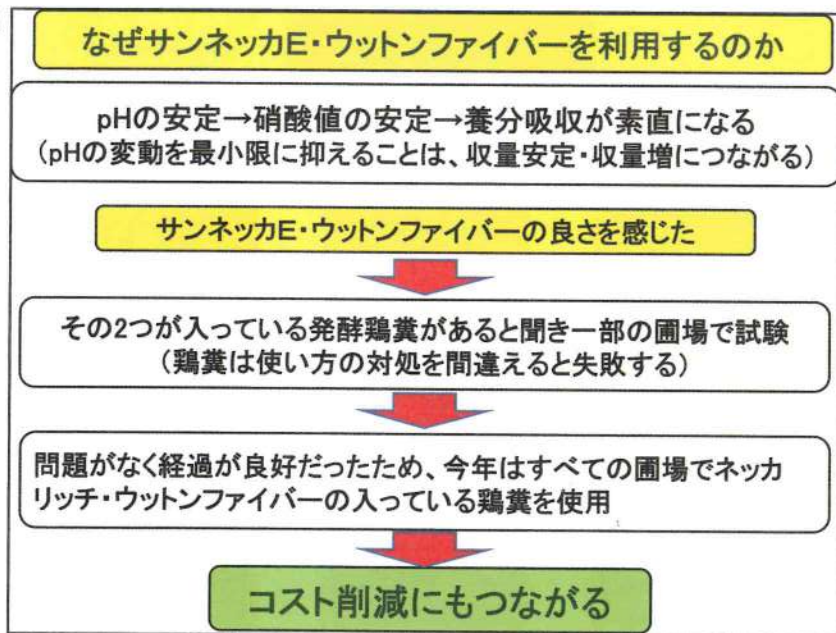
6



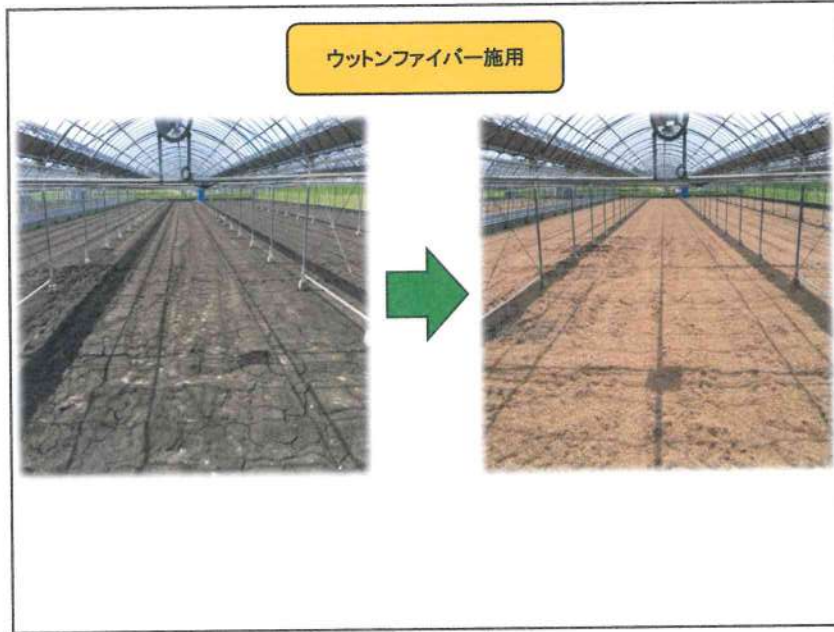
7



8



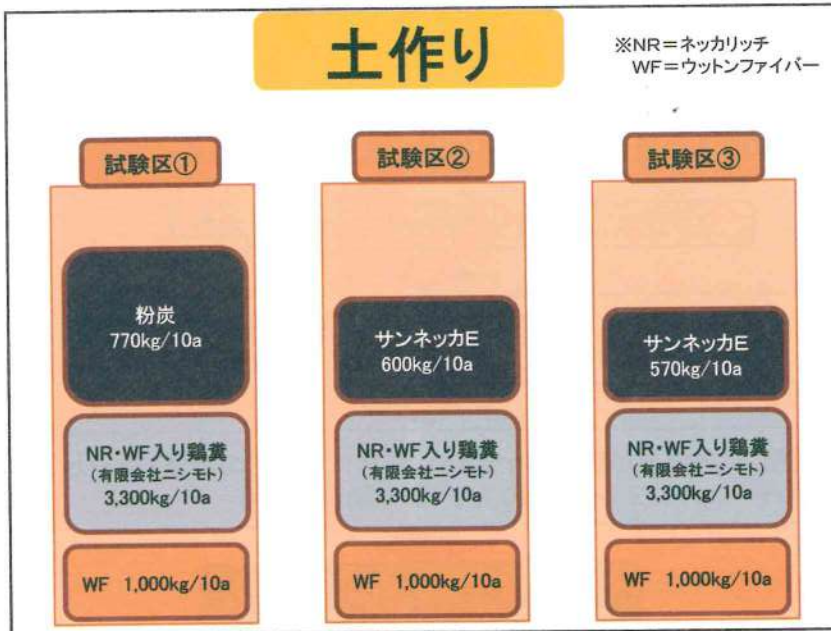
9



10



11



12

○ 畜産農家の皆様へ ○

**輸入飼料を給与した家畜の排せつ物に由来する  
堆肥を販売・譲渡・施用する際にはご注意ください!**

海外で使用された農薬の成分(クロピラリド)が含まれた輸入飼料が家畜に給与された場合、堆肥を通じて、園芸作物やマメ科牧草等の生育に障害を起こす可能性があります。

クロピラリド使用

外国産飼料

日本へ輸入

家畜に給与

糞尿を堆肥化

障害発生  
(トマトの例)

- ① クロピラリドは、広葉雑草(クローバーなど)を枯らす除草剤の成分で、我が国が粗飼料や穀類の多くを輸入している米国、豪州、カナダ等の各国で使用されています(我が国では申請がなく農業登録されていません)。
- ② クロピラリドは、家畜の体内から速やかに排出され、家畜や人に対する毒性が低いため、飼料に含まれていても、**家畜や人の健康に影響を及ぼす心配はありません。**
- ③ クロピラリドに対する感受性は、作物や品種により大きく異なります。イネ科作物は耐性があるため、通常の施用量では稲、麦、とうもろこしやイネ科牧草の生産に障害を引き起こす**心配はありません。**

平成30年7月 農林水産省より各都道府県に配布された資料より抜粋  
※現在調査中、現段階の可能性

